

球磨川治水対策協議会
第4回 整備局長・知事・市町村長会議
説明資料

第9回協議会の説明内容についての主な意見

令和元年11月13日

国土交通省 九州地方整備局
熊 本 県

①複数の治水対策の組み合わせ案の立案について

○ 全流域市町村

第9回協議会で出された意見 意見照会により出された意見

- 意見無し

②複数の治水対策の組み合わせ案の課題整理の軸ごとの評価(案)について

○ 八代市

- 八代市は下流に位置するので、八代市の上流側で放流する放水路案の影響が大きい。放流水のピークが重なると、河川水位が高くなる可能性があり、八代市の上流側で放流するルートは避けて頂きたい。【組み合わせ案⑨：安全度（被害軽減効果）①】

放水路(ルート1)

防災面	<ul style="list-style-type: none"> • 八代市は下流部に位置するため、本市の上流側で放流する放水路案は、下流への影響が大きく、流域内での降雨の状況によっては、説明資料-3、35頁の「既往洪水による放水路下流側における水位変動の比較(ルート1案)」以上に、水位のピークが高くなる等の可能性があると考えられるため、本市の上流部で放流する放水路案(ルート1)は避けていただきたい。【組み合わせ案⑨：安全度（被害軽減効果）①】 • 放流時の放流先への周知など、市民の安全を確実に確保するための対策が施される必要がある。
環境面	<ul style="list-style-type: none"> • 他案同様、法または県条例に基づく環境影響評価(環境アセスメント)の対象事業に該当するのではないかと考える。また、事業を実施する際には、環境影響評価計画段階環境配慮書の手続きが必要になることを踏まえ、環境影響の回避・低減を図る観点も必要と考える。 • 工事施工の際には、トンネル掘削及び土砂の運搬に伴う粉じんや騒音・振動、地下水の枯渇、地盤沈下などのほか、濁水の放流に伴う河川又は海域への影響が懸念される。【組み合わせ案⑨：環境⑬⑭、地域社会への影響⑯】
産業面	<ul style="list-style-type: none"> • 球磨川から工業用水を取水している市内企業の中には、近年、ゲリラ豪雨に伴う球磨川の濁度上昇により、規制基準(排水)の順守及び製品の品質保持のため、減産又は生産設備の停止を余儀なくされるなど、事業活動に大きな影響が出ている企業もある。 • 水位の到達時間の早まりや濁水量の急激な増加により、工業用水を取水している企業への影響が考えられる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> • 放水路案については、利害関係者や関係団体、地域住民など、関係者が多岐にわたることから、十分な説明及び合意形成が必要。【組み合わせ案⑨：実現性⑧⑨、地域社会への影響⑰】

※【 】は各市町村から出された意見を、該当する組み合わせ案と説明資料-6「4. 複数の治水対策の組み合わせ案の課題整理の軸ごとの評価(案)」において該当する課題整理に区分したものの。

②複数の治水対策の組み合わせ案の課題整理の軸ごとの評価(案)について

□ 第9回協議会で出された意見 ▣ 意見照会により出された意見

放水路(ルート4)

防災面	<ul style="list-style-type: none"> 八代海に放流した場合、満潮時と降水のピークが重なることで、放流部分付近の浸水が危惧されることから、海岸堤防の強化等の対策が必要である。 放水路及び放流部分付近への土砂堆積による放水路以外への溢れが懸念される。【組み合わせ案⑩：維持管理（持続性）⑫】 放流時の放流先への周知など、市民の安全を確実に確保するための対策が施される必要がある。
環境面	<ul style="list-style-type: none"> 他案同様、法または県条例に基づく環境影響評価(環境アセスメント)の対象事業に該当するのではないかと考える。また、事業を実施する際には、環境影響評価計画段階環境配慮書の手続きが必要になることを踏まえ、環境影響の回避・低減を図る観点も必要と考える。 工事施工の際には、トンネル掘削及び土砂の運搬に伴う粉じんや騒音・振動、地下水の枯渇、地盤沈下などのほか、濁水の放流に伴う河川又は海域への影響が懸念される。ルート4は、直接、八代海に放流させることから、干潟をはじめとする海域環境への影響が他案に比べ広域に及ぶことを危惧する。【組み合わせ案⑩：環境⑬⑭、地域社会への影響⑯】
産業面	<ul style="list-style-type: none"> 八代海への放流先によっては、干潟の泥化や淡水化が懸念され、アサリなどの生息環境の悪化や、海水の透明度低下、鮎等への影響が懸念される。【組み合わせ案⑩：環境⑬⑭】 流木等による小型定置網(漁具)への影響や、航路への土砂の流入(埋そく)なども懸念される。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 放水路案については、利害関係者や関係団体、地域住民など、関係者が多岐にわたることから、十分な説明及び合意形成が必要。【組み合わせ案⑩：実現性⑧⑨、地域社会への影響⑰】

○ 芦北町

- 意見無し

※【 】は各市町村から出された意見を、該当する組み合わせ案と説明資料-6「4. 複数の治水対策の組み合わせ案の課題整理の軸ごとの評価(案)」において該当する課題整理に区分したものを。

②複数の治水対策の組み合わせ案の課題整理の軸ごとの評価(案)について

○ 球磨村

第9回協議会で出された意見 意見照会により出された意見

- 中流部の河道掘削案は、球磨川の瀬を全面的に掘削する案となっているが、球磨川のイメージが悪くなる。掘削については慎重に検討して欲しい。【組み合わせ案②③：環境⑬、地域社会への影響⑯】
- 堤防嵩上げ案による水位の上昇は水害リスクの上昇、安全な土地の減少を意味していると思われる、宅地の再かさ上げを村民に強いることになり、これを受け入れて村民に説明するのは非常に難しい。【組み合わせ案①④⑦⑧⑨：安全度（被害軽減効果）②、実現性⑧、地域社会への影響⑯】

- (河道掘削等)・・・これまでの意見のとおり【組み合わせ案②③：環境⑬、地域社会への影響⑯】

◇これまでの意見(球磨村)

H27.11.9 第3回「球磨川治水対策協議会」議事録より

球磨村副村長)

私からはお願いでございますけれども、球磨村は安全度が特に低いということでございますので、治水安全度を上げるための対策は早急に進めていただきたいと思います。これは大前提でございますけれども、先ほど掘削の話が出ました。このことについてお願いをしておきたいと思っております。中流部の球磨村付近が挙がっております。この辺りは大きな岩が河岸にございまして、瀬や淵が連続する区間でもございます。球磨川を代表する瀬であります球磨川五大瀬や、槍倒しの瀬などもございます。日本三大急流で知られる球磨川の歴史的、文化的重要な意味を持つ区間と思っております。この区間で大規模な掘削を行うということになりますと、これらの瀬や淵が壊れてしまうのではないかと危惧もいたしております。今後、別の対策案も検討された上で、組み合わせを考えていくことになるということでございますが、歴史的、文化的、環境的にも優れた地区でございますので、是非現在の環境をあまり変えないような対策でお願いしたいと思っております。

- 「おおむねの工期」では、「予算制約はない」とあるが、予算が青天井につくはずはないと思われる。現実的に確保可能な予算額と予算状況を踏まえた現実的な工期を示していただかないと判断を誤ることが予想される。【組み合わせ案①～⑩：概ねの工期⑥】

※【 】は各市町村から出された意見を、該当する組み合わせ案と説明資料－6「4. 複数の治水対策の組み合わせ案の課題整理の軸ごとの評価(案)」において該当する課題整理に区分したものの。

②複数の治水対策の組み合わせ案の課題整理の軸ごとの評価(案)について

第9回協議会で出された意見 意見照会により出された意見

○ 人吉市

- 市の中心部の大規模な移転を伴う引堤案については、その交渉等にかかる年数について長期にわたることが危惧されることから、地域の理解が得難いものと思料する。堤防嵩上げ案についても同様である。【組み合わせ案①～⑧：実現性⑧】
- また、組み合わせ案について、人吉地区では、中心対策案、補完対策案ともに相当な年数がかかることが懸念されるが、本市としては、早期に実現可能な対策を期待する。
【組み合わせ案①～⑧：概ねの工期⑥】

○ 錦町

- 複数の案が、昭和40年7月洪水と同規模の洪水を安全に流すことができるとして示されたが、資料5の実現性(⑧土地所有者等の協力の見通し)を見たとき、組み合わせ案⑩(放水路(ルート4))が、移転戸数・用地買収が最も少ないため最良の案と考える。
【組み合わせ案⑩：実現性⑧】
- 放水路案については、技術的な面で不安というような説明があったものの、放水路のルート上にある山間部については、高速道路として数多くのトンネルが設けられており、その実績からして、素人考えであるが実現できるのではないかと考える。【組み合わせ案⑨⑩：実現性⑩】
- なお、上記組み合わせ案⑩にある上流部の河道掘削については、早期の施工を望む。

※【 】は各市町村から出された意見を、該当する組み合わせ案と説明資料-6「4. 複数の治水対策の組み合わせ案の課題整理の軸ごとの評価(案)」において該当する課題整理に区分したものを示す。

②複数の治水対策の組み合わせ案の課題整理の軸ごとの評価(案)について

第9回協議会で出された意見 意見照会により出された意見

○ あさぎり町

- 遊水地案は優良農地が失われることになり、農家の理解や農業振興への影響を危惧する。
【組み合わせ案⑤⑥：実現性⑧⑨、地域社会への影響⑩】
- 河道掘削により洪水時の水位が低下することは内水における洪水対策になり、併せて樹木伐採を実施することで更なる水位の低下と周辺環境の改善が望める。
【組み合わせ案①～⑩：安全度(被害軽減効果) ①】

○ 多良木町

- (遊水地案について)樹木伐採も含めて河道掘削を進めていただくことは、牛島地区をはじめ水面より低い場所にある土地が多くあり、有難いことである。【組み合わせ案⑤⑥】
- この問題に関しては、遊水地案とダム再開発案を除くと、当町より下流または川辺川筋において対策の影響が大きいと思うので、下流域の市町村長の意見をきいていただいて検討を進めていただきたい。

○ 湯前町

- 意見無し

※【 】は各市町村から出された意見を、該当する組み合わせ案と説明資料－6「4. 複数の治水対策の組み合わせ案の課題整理の軸ごとの評価(案)」において該当する課題整理に区分したものを。

②複数の治水対策の組み合わせ案の課題整理の軸ごとの評価(案)について

○ 水上村

第9回協議会で出された意見 意見照会により出された意見

- 市房ダムの再開発に関しては、平成28年2月2日開催の球磨川治水対策協議会第1回整備局長・知事・市町村長会議において、中嶽村長から意見を申し上げ、平成28年12月26日開催の球磨川治水対策協議会においても、当時の総務課長から意見を申し上げているところですが、再開発で約20mの嵩上げをすることにより、約91haが水没することになり、50戸の家屋が移転を余儀なくされる。加えて、道路の付け替えも約16km必要となり、本村のシンボルである桜も水没することになる。また、村議会においても、平成21年に「市房ダム再開発に関する決議」として、県へ意志を伝えている。
以上のようなことを踏まえると、村民の理解は到底得られないと考えている。

【組み合わせ案⑦⑧：実現性⑧⑨、地域社会への影響⑩】

○ 山江村

- 意見無し

○ 相良村

- これまでもお伝えしているが、川辺川の左右岸にある住宅や優良農地を守るための治水対策の検討であり、組み合わせ案であっても、その殆どが移転するような内容であれば、関係者の理解は得られないと考える。【組み合わせ案①～⑧：実現性⑧⑨、地域社会への影響⑩】
- 放水路(ルート1)又は(ルート4)であれば、引堤や嵩上げで発生する住宅や優良農地の移転が不要であること、また洪水調節機能が効果的で実現可能な方策と考える。

【組み合わせ案⑨⑩：実現性⑧⑨、地域社会への影響⑩】

※【 】は各市町村から出された意見を、該当する組み合わせ案と説明資料-6「4. 複数の治水対策の組み合わせ案の課題整理の軸ごとの評価(案)」において該当する課題整理に区分したものを示す。

②複数の治水対策の組み合わせ案の課題整理の軸ごとの評価(案)について

○ 五木村

第9回協議会で出された意見 意見照会により出された意見

1. 対策案(放水路)について【組み合わせ案⑨⑩：安全度(被害軽減効果)③、概算事業費④、概ねの工期⑥、実現性⑪】

- 川辺川上流部からの放水路案(ルート1及びルート4)は次の事から実現や効果に疑問があります。
 - 1) 放水路は完成しなければ、その効果の全てが発現されない対策であり、完成まで相当の期間と多額の投資が必要で、その間、洪水災害等が発生した場合、別途対策が必要となる。
 - 2) 川辺川上流部に呑口部(流入口)を設置する場合、その対策が十分可能なのか疑問である。
その理由は、
 - ① 河床の変動が激しいこと。
 - ② 河川への土石の流入が激しく、呑口部及び放水路内の適正な管理が可能か。(堆砂や放流部での大量の土石排出)
 - ③ 呑口部の安定化のため堰等の構造物設置が可能か。
- 放水路案については、技術的検討や費用対効果から相当の議論が必要であり、安全度が低い球磨川では早期の対策が求められている中、現実的な対策となり得ない。

2. 全体的な対策について

- 基本的な対策として、流下能力を上げるか、流入量を抑制するか、または、洪水被害が想定される区域を河川敷となすのかであり、流下能力の向上は出口(下流域)から実施すべきであります。
- よって、当面取るべき対策は河積断面を広げ、上流部、支川からの土石流入を防ぐ対策が必要と考えます。遊水地案については過去の経緯から実現不可能と思われる。
【組み合わせ案⑤⑥：実現性⑧⑨、地域社会への影響⑫⑬】

※【 】は各市町村から出された意見を、該当する組み合わせ案と説明資料-6「4. 複数の治水対策の組み合わせ案の課題整理の軸ごとの評価(案)」において該当する課題整理に区分したものの。

③その他

○ 球磨村

第9回協議会で出された意見

意見照会により出された意見

国土交通省、熊本県の皆様には、球磨川流域の安全、安心のために、鋭意ご尽力を賜り、心から感謝を申し上げます。

川辺川ダム計画につきましては、熊本県知事のダム白紙撤回の表明から、11年が経ちました。その間「ダムによらない治水を検討する場」が設置され、6年にわたり12回の協議が重ねられたものの、全ての代替治水対策を実施しても、球磨川、中流・下流の人吉市、球磨村、芦北町、八代市の治水安全度は、全国の国管理河川の目標より、とても低い水準に留まり、抜本的な治水対策を見出すことが出来ませんでした。

そこで当面の目標として、戦後最大の洪水被害をもたらした昭和40年7月洪水と、同規模の洪水を安全に流下させる「中期的に必要な治水安全度」を達成するために、新たに「球磨川治水対策協議会」が設置されたところでございます。

そして、平成27年3月から協議が進められておりますが、第4回の整備局長・知事・市町村長会議につきましても、前年度内に開催されるべきものであります。球磨川の治水安全度は特に低い状況でありますので、治水安全度を上げるための対策について、スピード感をもった、一層の取り組みの促進をお願いしてきましたが、スピード感が感じられません。国・県として、今後、どのような進め方まとめ方を考えておられるのでしょうか。

この度の10案に対する市町村の意見の違いも大きすぎるようです。相当の時間も要しており、「ダムによらない治水」の検討は最大限に追求されたものと思います。住民の安全に責任を負い、首長として、全国的に見て、妥当な水準の治水安全度として設けた、協議会の目標を実現する抜本的な治水対策でなければ受け入れることはできません。

以上、よろしく願いいたします。

※【 】は各市町村から出された意見を、該当する組み合わせ案と説明資料－6「4. 複数の治水対策の組み合わせ案の課題整理の軸ごとの評価（案）」において該当する課題整理に区分したものの。

③その他

○ 山江村(球磨郡町村会長)

第9回協議会で出された意見

意見照会により出された意見

国土交通省及び熊本県におかれましては、日頃より球磨川流域の治水安全の確保のためにいろいろとご支援を賜り衷心より感謝申し上げます。

さて、10月に上陸した台風19号の広範囲に及ぶ猛威には今更ながら大変驚きました。亡くなられた方々へのお悔やみと被災された方々が一日も早く日常の生活に戻られますよう心からお祈りいたします。

もし、台風19号が発生当初の進路を取り九州の近郊を通過していたら、治水安全度が低い人吉球磨地域は、これまでに無い大災害が被っていたと想像しますし、我々行政も想定外のあるゆる大型災害に対しハード・ソフト両面からの危機管理としての対策が急がされています。

そこで、球磨郡町村会長の意見として国及び県に見解をお尋ねします。

- 意見の相違が大きい10案をどのように結論づけていかれるのか？
- 流域12市町村の間でも議論を深めていく必要があると考えるがいかがか？
- 10案がもしまとまらない場合、ソフト対策を中心に災害に対応しなければいけないのか？

以上、よろしく願いいたします。

※【 】は各市町村から出された意見を、該当する組み合わせ案と説明資料－6「4. 複数の治水対策の組み合わせ案の課題整理の軸ごとの評価（案）」において該当する課題整理に区分したものの。

〈参考〉

球磨川治水対策協議会、整備局長・知事・市町村長会議
これまでの主な意見

内容	主な意見 等	対応方針
検討の進め方 等	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の検討については、ある程度の目安(期限)が必要。【多良木町】 ・治水安全度の目標を達成できる若しくは達成しているような他の河川の事例も紹介してほしい。【水上村】 ・流下能力の不足割合や洪水時に想定される被害などを住民が理解するための説明が必要。【あさぎり町】 ・目標とする治水安全度は複数の対策を実施しないと達成されないと思う。【芦北町】 ・八代市は昭和40年7月洪水と同規模の洪水に対して対策が必要ないとのことですが、上流の対策で洪水が一気に流下してくる点を懸念する。行政としては住民を安全に避難させる必要がある。この懸念も頭におきながら、今後の組み合わせ(案)を検討して欲しい。【八代市】 	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧かつスピード感をもって進める。 ・他の河川の治水対策事例について分かりやすい説明に努め、併せて現地調査も実施。(平成28年1月12日・川内川現地調査) ・洪水に対しリスクの高い区間の共同点検、住民への周知を実施。なお、治水対策案検討に際してはパブリックコメント等も実施。 ・複数の対策を組み合わせた場合について総合的に検討する。
事業費、 費用対効果 等	<ul style="list-style-type: none"> ・対策案がまとまったのに実施できないことにならないよう、地域へ及ぼす影響や、事業費や工期についても早期に検討してほしい。【球磨村長】 ・対策案は莫大な費用がかかると思われるが、費用に触れられていない。行政には市民へ事業費やB/Cなどの説明責任がある。【八代市】 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業費は重要な要素であり、青天井ではない。費用対効果も考慮して検討を行う。今後、詳細に検討し、コスト、実現性、環境や地域社会への影響等の観点で総合的に評価を行う。
検討する場で 積み上げた対策の 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで積み上げられた対策後でも安全度が1/5～1/10程度であり、一刻も早い治水安全度の向上を望んでいる。【球磨村長】 ・治水安全度の低い球磨村にとっては、治水安全度を上げるための対策を早急に進めてほしい。【球磨村】 	<ul style="list-style-type: none"> ・「検討する場」で積み上げた対策について、流域市町村の協力を得ながら、地域の理解が得られたものから着実に実施していく。

内容	主な意見 等	対応方針
【対応A】 全般	<ul style="list-style-type: none"> ・【対応A】、【対応B】、【その他】について、それぞれに課題や問題があり、本市に関して引堤や堤防嵩上げ等、様々に検討する部分があると捉えている【人吉市長】 ・球磨川下流部については、昭和40年7月洪水と同規模の洪水を「ダムによらない治水を検討する場」での対策の効果を見込むことで流すことができるとされているが、上流側での対策が実施されると、洪水が早いスピードで流れてくるようになり、水位が急に上昇するなど下流への影響を懸念する。全国では想定外の洪水も発生している状況であり、この変化を危惧する。こういった点も視野に入れながら今後の検討が必要。【八代市】 	<ul style="list-style-type: none"> ・上下流のバランスを考慮した対策を検討する。
【対応A】 河道掘削等	<ul style="list-style-type: none"> ・河道掘削は、土捨て場の確保が課題となるのではないか【山江村長】 ・河道掘削を行っても上流からの土砂供給で再堆積して再度掘削する必要がある。上流からの供給土砂の抑制方策の検討が必要【五木村長】 ・歴史的、文化的、環境的な側面から改変しない対策をお願いしたい【球磨村長】 ・中流部には歴史的・文化的に重要な意味をもつ瀬があり、できるだけ現状の環境を変えない対策とすべき。【球磨村】 	
【対応A】 引堤	<ul style="list-style-type: none"> ・人吉市街地では右岸は家屋や温泉など、また左岸は人吉城跡などへ相当の影響や補償内容となり、実現性を危惧する。【人吉市】 ・人吉市では昨年度から3箇年かけて景観条例の策定に取り組んでおり、これまでに実施したアンケートでは、中川原公園や人吉城跡など球磨川沿いの景観を尊重する意見が多く出されている。そのため、引堤や、特に堤防嵩上げは最大で1.3mの嵩上げとなり視界を遮るため、実際に事業化するには景観上のコンセンサスを得られるか危惧する。【人吉市】 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、詳細に検討し、コスト、実現性、環境や地域社会への影響等の観点で総合的に評価を行う。
【対応A】 堤防嵩上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・堤防嵩上げでさらに水位が上げられると、水害時のリスクが高まることを懸念する。水位を上げない対策をお願いしたい。【球磨村長】 ・人吉市では昨年度から3箇年かけて景観条例の策定に取り組んでおり、これまでに実施したアンケートでは、中川原公園や人吉城跡など球磨川沿いの景観を尊重する意見が多く出されている。そのため、引堤や、特に堤防嵩上げは最大で1.3mの嵩上げとなり視界を遮るため、実際に事業化するには景観上のコンセンサスを得られるか危惧する。【人吉市】 	
川辺川筋 【対応A】 引堤 堤防嵩上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・本来、川辺川の左右岸にある住宅や優良農地を守るための治水対策の検討であり、その殆どが移転するような状況は避けたい。よって川辺川筋での引堤や堤防嵩上げは不可能と考える。【相良村】 	

内容	主な意見 等	対応方針
<p>【対応B】 遊水地</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・右岸左岸とも優良農地であるが、この多くの農地が失われることになる。貯水効果と引き換えに農地が犠牲になることについて、農家の理解が得られるのか疑問。【湯前町】 ・遊水地は、洪水時には濁流を貯留し、洪水後には泥水が残ることで、環境への影響が大きいのではないかと懸念する。【湯前町】 ・遊水地の受益地は下流域であり、上下流の認識が一致できるか危惧する。【多良木町】 ・水田は優良農地であり、十分な補償がなされるのか疑問である。【多良木町】 ・球磨川沿いの農地は優良農地。農業法人が拠点としている農地が含まれており、これほど多くの農地が失われることを強く危惧する。【多良木町】 ・優良農地が多く無くなるほか、一つの集落がすっぽり含まれる箇所があるなど、地元の理解が得られるのか疑問。【錦町】 	
<p>【対応B】 ダム再開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ダム周辺整備の未実施等、これまでの背景から考えても地域からの理解が得られない。【水上村長】 ・水上村は市房ダムを受け入れ、多くの家屋が移転し、村が分断された。水源地特措法が成立する以前のダムであり、同法の適用による振興支援もない。このような状況で、さらに移転する家屋が発生することは、住民の理解が得られないと大変危惧しており、実現がかなり難しいのではないかと考える。【水上村】 ・市房ダムは、錦町、あさぎり町、多良木町、湯前町の4町、面積にして3,570haの農地に農業用水を供給している。今年度は渇水で取水制限が実施されており、このような水不足が生じている状況で農家の理解が得られるのか疑問。また、農業振興の面でも悪影響があるのでないかと懸念する。【湯前町】 ・利水容量の買い上げは農業の面からは考えられない対策案である。【多良木町】 ・利水容量を買い上げた場合、水不足の問題など農業振興も含めて地域に及ぼす影響を考えていただきたい。【あさぎり町】 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、詳細に検討し、コスト、実現性、環境や地域社会への影響等の観点で総合的に評価を行う。

内容	主な意見 等	対応方針
【対応B】 放水路	<ul style="list-style-type: none"> ・八代市は、勾配がない平野に約10万人が住んでおり、放水路ができると球磨川本川と放水路から洪水が来ることとなり、洪水の到達時間が早くなることを懸念する。避難対策も含めて検討が必要となる。【八代市長】 ・放水路のルート2案は、効果はあるものの下流河川への影響が懸念され地元の理解が得られるのか疑問。また距離も長く莫大な費用となることが想定されるのではないか。【八代市長】 ・八代市に直接水を運んでくる状況となり、放流先の下流で短時間に一気に水位が上がるのが危惧され、特に下流部の負荷が大きくなると考えられ、市民の理解を得ることは大変難しいと考える。【八代市】 ・放水路のルート3案では本村の国道、県道、JRなど浸水するおそれのほか、支流沿いも背水の影響で浸水・孤立する集落が発生するおそれもある。また過去に実施された宅地嵩上げなども無駄にならないように検討して頂きたい。【球磨村長】 ・これまで宅地の嵩上げを実施してきたが、放水路(ルート3)により川幅が狭いところに放流されるため、これまで以上に道路が冠水する、あるいは家屋が孤立するところが増えることを危惧する。この対策により、下流がどのような状態になるのか把握しておきたい。【球磨村】 ・各対策で用地等の権利関係をまとめる必要があることを考えると、放水路案は費用対効果を検討すべきと思うが、一番実現可能性が高いのではないか。【人吉市】 ・放水路の川辺川上流部から本川下流へ放水するルート案は、洪水の調節機能としては非常に効果的で最も実現可能な方策と思う。【相良村】 ・通常は、放水路を道路として利用できないか。【五木村】 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、詳細に検討し、コスト、実現性、環境や地域社会への影響等の観点で総合的に評価を行う。
【対応B】 流域の保全・流域における対策	<ul style="list-style-type: none"> ・今回とは別途の対策でもかまわないので、山(森林)を一つの視点として議論が必要と感じている。【あさぎり町長】 	<ul style="list-style-type: none"> ・「森林の保全」について、第5回協議会で検討し、現時点では現計画以上に効果を見込むことはできないため、検討対象外とした対応方針(案)を示している。
【その他】 宅地のかさ上げ等 輪中堤	<ul style="list-style-type: none"> ・人家の移転補償による対策の検討を提案する。【相良村】 	<ul style="list-style-type: none"> ・「家屋等移転」について、第5回協議会で検討し、本協議会の対策案の総合的な評価の結果、宅地のかさ上げ等、輪中堤による対策となった地区について事業実施段階で個別に家屋等移転の適合性を検討するとした対応方針(案)を示している。

内容	主な意見 等	対応方針
<p>組み合わせ案の考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・貯留する【対応B】と引堤や河道掘削等の【対応A】は相反する対策の組み合わせと思われる。上流域で大量に急いで流すと、下流域では被害が大きくなるため、果たして組み合わせいいものかと考える。【湯前町長】 ・この協議会そのものの対策で、時間経過と実現可能なことなのかを含めて協議をしないと具体に進んでいかないとされる【湯前町長】 ・実現できない対策案の検討を進めても、実現できない組み合わせになることを危惧する。【錦町長】 	<ul style="list-style-type: none"> ・9つの治水対策のいずれかを単独で実施した場合には、目標とする治水安全度に達しないため、今後、治水対策の組み合わせ案を検討する。 ・複数の治水対策の組み合わせ案を立案し、安全度(被害軽減効果)、概算事業費、概ねの工期、実現性、維持管理(持続性)、環境、地域社会への影響、将来の拡張性(柔軟性)の課題整理の軸ごとに評価を行う。